

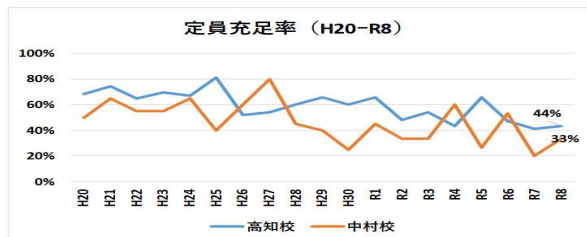
諮問の概要

- **県立高等技術学校（高知校及び中村校）は、職業能力開発促進法第16条第1項に基づく職業能力開発校として設置。**これまで、主にものつくり分野において、即戦力として県内産業を支える技術者・技能者を育成。
- 近年、入校者数は減少している一方、**産業界からの人材ニーズは依然として高く、AI等のデジタル技術の進展により、求められる技能も変化。**
- こうした状況を踏まえ、**高等技術学校における訓練科の構成やカリキュラム、訓練施設・設備、訓練生に対する支援・指導体制等のあり方**について高知県職業能力開発審議会の意見を求める。

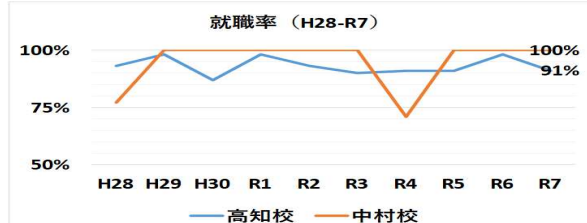
現 状

- 高知校で普通課程 6 科目、中村校で普通課程 2 科目、短期課程 2 科目の訓練を実施しているが、近年定員充足率は低迷している。

学校名	科目 ※（ ）内は定員
高知校	<普通課程> 機械加工科(10)、溶接科(10)、 電気工事科(15)、自動車整備科(20)、 配管科(10)、塑性加工科(高卒10、中卒10)
中村校	<普通課程> 木造建築科Ⅰ(5)、木造建築科Ⅱ(10) <短期課程> 左官エクステリア科(5)、住宅リフォーム科(15)



- 一方で、修了者の就職率は概ね 9 割を超えている



- 高知校・中村校の施設は、ともに築50年前後で老朽化が著しい

課 題

- 人口減少や少子高齢化の進行に伴い、将来的に新規学卒者の減少が見込まれ、入校者の確保は一層厳しさを増すことが想定される。
- 県内の業界団体からは以下のニーズが示されている
 - ・ 時代のニーズに合わせたカリキュラムの検討
 - ・ 女性訓練生を受入れるための環境の整備
 - ・ 外国人材向けの在職者訓練の充実 (R7.10～11月 業界団体へのヒアリングによる)
- 施設の老朽化により維持修繕費が増加傾向。特に昭和45年に建設された中村校は、本館を含む複数の施設が耐用年数を10年以上超過している
維持修繕に係る予算(両校合計)
〔 H28:15,830千円→R8:72,236千円 〕



中村校 実習棟(溶接)【築56年】



中村校 寄宿舎【築55年】

【令和7年度の審議会における主な意見】

- ・ AIに代替されない技能を身に付けられる訓練施設として役割の確立
- ・ 時代に合わせた適切なカリキュラムを取り入れるなど、DX等への対応が必要
- ・ 施設の老朽化が著しく、安全性に懸念があるため、改築や統廃合を含めた検討

検討の視点

I. 高等技術学校の役割

II. 高等技術学校の訓練のあり方

- 公共職業訓練を取り巻く環境を踏まえ、高等技術学校における訓練の今後のあるべき姿について
 - 基本的な考え方（総論）
DX等への対応、複数技能の習得 等
 - 訓練課程
訓練科の構成、時代に合わせた適切なカリキュラム
 - 在職者、外国人材の訓練
- あるべき姿を実現するための適正な実施体制等
 - 定員、応募資格(中卒/高卒)
 - 施設(寮含む)、設備
 - 統廃合の検討
 - 訓練生への支援体制、指導員の育成確保
 - 入校生の確保

III. 5年後（令和12年度まで）の目指すべき姿 数値目標の設定

検討スケジュール（案）

- R8.5.25 【第1回】 諮問 ※本日
- R8.9月上旬 【第2回】 答申素案（中間報告）
- R9.1月中旬 【第3回】 答申案について審議

⇒R9年度以降に答申を踏まえた具体的な検討を進める